平成２４年度第１回平塚市博物館協議会会議録

開催日時
平成 24 年 5 月 18 日（金）10 時～11 時 30 分
開催場所
　平塚市博物館特別研究室
会議出席者（敬称略）
　会　長　牧野　久実
　副会長　宮川　重信
　委　員　石綿　進一、猪俣　　秀、熊澤　武彦、椿田　有希子
　事務局　鳶館長、澤村館長代理、縣館長代理
会議の概要
１　開　会
２　職員、委員の紹介
３　社会教育部長挨拶
４　会長及び副会長の選出
５　会長・副会長挨拶
６　議　題
⑴　事業報告（こどもフェスタ 2012、春期特別展）
⑵　今後の事業について（市制 80 周年記念夏期特別展、プラネタリウム・日食関連事業）
⑶　その他

議題⑴について事務局澤村館長代理から協議会説明資料により説明。

【質疑応答】
委　員　春期特別展の「平塚と相模の城館」のアンケート結果ですが、大半は良い評価ですが、総合評価で「全然ダメだ」というのは、具体的にどのようなご意見があったのでしょうか。
事務局　かなり熱心な方が多くいらっしゃいました。ご自分が期待していた内容のイメージと違ったということがあろうかと思います。
委　員　市民の目から見ますと博物館というのは非常に専門的なイメージなんですね。ボランティアを通じて地域の人達とお付き合いしているのですが、専門的ではない地域の一般の人達と、非常にレベルの高い専門的な人達との間に差があって、それをどのように繋いでいくかが今後の大事な課題であると思います。博物館の中では内容の濃いものであっても、それが町の市民からは遠いものに見えるんですね。それで、専門家が見ると不満足に感じたり、市民から見れば難し過ぎる、ということになるのだと思います。学芸員さんがご努力されているのは良く分かるのですが、「良かった」と「全然ダメ」というように評価に幅があるわけです。今後、考え方を変えていく方向として、私は、どのようにすれば一般の市民に興味を持ってもらって来ていただくか、ということが大事な課題ではないかと思います。
委　員　貴重なご意見ですが、努力をされている博物館としていかがでしょうか。どこにポイントを置くか、難しい問題だと思うのですが。
事務局　おっしゃる通りの面があると思います。展示の中ではスペースの問題、資料と解説とのバランスの問題が出てきますので、展示では説明しきれない部分については、今回もそうですが、関連事業という形で補足するようにしております。今回の場合、関心を呼ぶテーマで、いろいろな要素を含む展示でした。報道で紹介された鎌倉時代の馬具の鐙ですとか、一方で発掘資料に興味を持たれる方もいらっしゃいますし、講座や講演会でそれらの要素をそれぞれに展開しつつ、更に詳しく解説をしていくようにしました。講堂の収容人数９０人位のところを、それを越える 100 名ほどの方に聴いていただくような状況が講座の最終回まで続きました。講座自体が支持されたと思っております。
委　員　今回の展示についてですが、市民に見せるとか、教えるとか、学ばせる、というのではなくて、市民が主催者側と一緒の立場に立って、市民の考えを反映させるような形で関わったということはありますか。あくまでも博物館としての展示でしょうか。

事務局　特別展によって、市民の関わり方の度合いは違っております。今回の場合、展示の作業には市民の方に参加していただいていますが、企画の段階では発掘資料の展示ということが主になっておりますので、企画に市民が参加する特別展ということではありませんでした。

委　員　先月、平塚市の人と『南総里見八犬伝』や里見氏について探ろうと、千葉県の館山市立博物館に行ったのですが、『南総里見八犬伝』の里見氏の土地ということで、自分達の地域の歴史物語を生かしてＮＨＫの大河ドラマで取り上げてもらおうと、博物館と市民が一体となった形で、よそから訪れた人に向けて博物館内だけではなくて町の中でも、市民が盛んに要請の署名運動を行っていました。12 万の署名を目標に今年の 3 月から始めて、現在 4 万集まっているということです。特別展も博物館主催ですし、署名も博物館に集約されるわけですが、館山の市民が博物館と一緒に連携して、という形は大変強いものだなと思いました。やはり「上から」、「官から」というのではなく、市民と一緒の目線でやっていくというのが強いなと感じました。

委　員　ありがとうございます。市民主導型といいますか、地域の拠点となる博物館として、平塚市博物館は日本の中で先駆者的な役割を担っていらっしゃると思います。先程の社会部長のお話のように、5 年後、10 年後を見据える意味で貴重なご意見だと思います。ありがとうございます。

委　員　もう一点報告がありました“こどもフェスタ”ですが、イベント参加者数が 22 年度に比べると 2 倍になっています。このあたり素晴らしい業績と思うのですが、いかがでしょうか。これだけ躍進した理由はどのあたりにあるのでしょうか。

事務局　“こどもフェスタ”も回数を重ねてまいりまして、こういうやり方がいいのかなというノウハウを、我々主催者も分かってきたということがまず言えると思います。開催日については、ゴールデン・ウィークの前半よりも、最終日あたりが良さそうだということ。それから、子供達にはこういう行事が喜んでもらえるんだな、子供達に喜んでもらえれば来られた親御さんにも喜んでいただけるのだということ。こうして行事が子供向けに段々洗練されてきたということが言えると思います。また当日はお天気に恵まれまして、それも大勢の方に来ていただくことができた理由だと思います。

委　員　私の経験で二つばかりお話したいのですが。地域で祭りというものが大事だということで、この前、中原の鷹狩り行列に参加してきました。その時、子供を相手にするイベントがたくさんあるのですが、その中のお神輿への要望として、お母さん方が「子供達の肩が痛くならないようにしてください」というんですね。どういう風にしたら良いのかというと、担ぐ棒を、痛くないようにサラシなどで我々が巻くのですが、ちょっとおかしな理屈ではないかなと思ったのです。昔、お神輿を担いだ経験では、肩が剥けて痛くなったら、お母さん方がそばについていて、痛くならないようにタオルを渡すというような関係があったと思うのですが、全く違ってきてしまっているんですね。先に世話役の大人が防御しなければ担がない、こういう理屈なんです。もう一つは、団子焼きというのがありまして、団子を町内会で饅頭屋さんに頼んでふかしてもらうのです。それを町内の我々が串に刺して 100 本ぐらい作るわけです。なぜこんなことをするのかという話なんですが、初めはお母さん方が団子を作って持ってきたんですね。その時、団子を作って持って来れない子がいるということで、それを町内の方が作ったのです。それから段々変わってしまって、団子を全部町内の人が作るようになってしまったわけです。中原は団子があるから持ってこなくていいや、という理屈になってしまったのです。なぜ、このようなお話をしたかと言いますと、“こどもフェスタ”もそうなのですが、自分達が自ら、子供達をどう参加させていくか、という過程・プロセスが無いから、多分どこかでぶつかるんですね。今、時代の色々な理屈が変わってきているのです。博物館の“こどもフェスタ”も、参加者数が増加した成功例ということですが、これをいかに永続していくかが難しいんですね。町内でも色々なイベントとして、例えば「河川敷にアジサイを植えよう」とやっていますが、それを永続して花を咲かせ続けるというのは大変なことですからね。成功した”こどもフェスタ　“も時代によって変化していくと思うので、花火のようにパッと終わらせずに、ずっと不変に永続させることが大事だと思います。学芸員さんは大変だと思うのですが。

事務局　おっしゃる通りでして、こうしたものをどう継続していくか、またどう変えていくか、どのようなご意見やご要望を受け入れていくかということを、我々の課題として取り組んで

いこうと思います。成功体験がありますと、どうしても引き摺られる部分がありますので、学芸員も自分の専門分野に集中しがちですが、できるだけ世の中の色々な状況を見聞する時間も取るようにして、いろいろなご意見・ご希望を取り入れていきたいと思います。

委　員　成功という言葉ですが、人が集まって賑やかなことが最終目的なのでしょうか。祭りやイベントには本来の目的があるはずなのです。変化する社会の要求に従って、より簡便な、より軽い、よりお金を使って派手に、というように、参加しやすいようにそれなりの工夫をすれば、とにかく人は大勢来ます。それが成功なのかどうか。たとえ数は少なくても内容が充実して、これまで知らなかったことを、こんなことを体験して、こんなことを知ることができた。そういうものが成功なのではないでしょうか。例えば今、京都は中学校の修学旅行生で一杯です。子供達は京都市内の道を歩くこともなく、一日貸し切りのタクシーで寺の門前まで行き、拝観料を払って、パンフレットを貰って、読んで、ちょっと写して、といった具合です。短時間で、身体が楽でできることが良いのかどうか。苦行が功徳と言われるように、本来は、つらかったり苦しかったりした結果に得たものが身になるのではないでしょうか。市民の行事もそういうものではないでしょうか。公民館のアンケートでも、このイベントは何人出た、これは何人出た、少ないのはやり方がおかしいんじゃないかなどと、数を評価するのですが、より人数を出すのは簡単なのです。移動教室なども、楽に行けてお土産がたくさんあるところに行けば良いわけです。そういうあり方ではなく、本来的なものを追求したほうが良いのに、と思うことがあります。館のアンケートを見て、いつも思うのですが、成功・不成功を数や％で云々、ということだけで良いのかどうかと考えます。

委　員　ありがとうございます。時代の変化に伴う価値観の変化といいますか、プロセス軽視・結果重視というような、大事な視点をご提示いただきました。今後の博物館の運営の中で参考にしていただければと思います。

委　員　小学校の立場としてですが、ゴールデン・ウィークで家族が旅行する中で、これだけ人数が集まるのは凄いなと感心しました。学校としましては、数あるイベントの中で、一つでも、学校向けに、あるいは学年向けに、例えば火起こしは高学年５･６年生というように、もう少し学校にアピール・宣伝していただければありがたいと思います。学校行事がある中で全部の学校さんが、というのは無理かもしれませんが、体験学習といいますか、理科や社会科、生活科や総合的な学習という部分で、授業としてイベントが成り立ってゆくだろうと思います。先ほどのご意見のように、ただ人数を集めるだけではなくて、学校でやって本当に面白かったとなれば、５月実施の“こどもフェスタ”にも、子供達がもう少し足を運んでくれるのではないかと思います。

委　員　学校と博物館との連携については、以前にも意見が出ていたと思うのですが、例えば広報活動はどのようにされていますでしょうか。

事務局　貴重なご意見をいただいたと思います。学校向けのＰＲとしましては、ポスターをお配りするとか、毎月、博物館の行事を掲載している月毎の広報紙に『あなたと博物館』がありまして、こちらを学校にクラス数ほど、余裕をみて配布しておりますので、先生方の一人一人の目に、行事内容が届くようになっていると思います。また、行事によっては校長会でお話をして、広報の協力をお願いするようにしております。そちらの機会などを更に利用してまいりたいと考えております。よろしくお願いいたします。今お話をうかがって感じたのですが、“こどもフェスタ”につきましては、先生方にアピールをして、当日、先生方はお休みではあるかと思いますが、どういうことをやっているのかなとイベントを覗いていただきご意見をいただくことができれば、先ほどのご意見のような意味においても、より洗練されていくのかなという気がいたしました。努力してまいりたいと思います。

委　員　博物館や文書館などは図書館と違って、人を集めるのがなかなか大変だと思うのですが、その中でこの数字というのは大変驚きました。子供達を相手にして、どういう問題があったのか、どういう点が難しかったのか、教えていただきたいのですが。

事務局　今年度目立ったのは人数が多かった割に館のキャパシティが小さかったということに集約されます。思った行事になかなか参加できなかった、という問題がありました。行事の感想については、お子さんが「面白かった」と私達に直接語りかけてくれることよりも、連れてきた大人の方が感想を述べられる、ということが多くなってきました。実際に子供

達はどうだったのかなというのが、間に一枚壁が入ったことで、私達に見えにくくなった気がします。

委　員　ありがとうございます。他にご意見はございませんか。よろしければ次の議題に移らせていただきたいと思います。

議題⑵について事務局澤村館長代理から協議会説明資料により説明。

【質疑応答】

委　員　市制 80 周年記念夏期特別展「レンズが見たひらつか―あの日、あの場所、あのくらし―」のご説明がありましたが、大規模な開発で景観が変わるということで、昔と現在の姿を対比する写真展をするというのは非常に良いことだと思うのですが、そこから何を発見するか、というのが大事だと思います。例えば、今の平塚市の開発指導要綱の 110 ㎡の区割りで開発されると、住宅にほとんど緑が無くなってきていることを心配しています。平塚市の景観担当や都市計画などもそういう写真を持っていると思いますので、博物館とそうした部局とが連携することで、また違った見方のできる、ボリュームのある写真展になると思います。町はどんどん変化してしまっていますので、市民の方々に見ていただくのはとても大事なことだと思います。あと、平塚らしさとは何だろうかという点も非常に重要なポイントですので、ぜひその辺を成功させるよう、他と連携してやっていってほしいなと思います。

委　員　貴重なご意見をありがとうございました。環境の変化ということで何かご意見はございますか。

委　員　前回、この特別展のご説明があった時に、1975 年、昭和 50 年より前ということで、ちょうど昭和 40 年代は、川が汚れて泡を吹いているような状態が多かったこと、それを踏まえて、今の川の状況などについてお話ししました。私はずっと平塚で、自然や景観や暮らしに関わる環境問題や公害問題について調査をしてきましたので、その意味で、この変化というのは劇的な変わり方なのですが、若い人達は全然知らないわけですね。そういう泡がボンボン立つような川や、魚がしょっちゅう死んでしまうような川が、平塚市内に普通にあって、それが今、こんなに綺麗になったんだよ、ということをぜひＰＲしてほしいと思います。日本じゅうの川がそうだったと思うのですが、今はほとんど綺麗になっているんですね。少なくとも川の環境がかなり改善されていることを写真で出していただければありがたいですし、そうした写真を持っている機関もあるのではないか思います。

委　員　ありがとうございます。なかなか難しいテーマで文章ではなかなか伝わりにくいことも、写真はとてもインパクトがあると思うのですが、今ご指摘をいただいたような点を取り入れていくような余地はございますか。

事務局　貴重なご意見をいただいて、ありがたく感じております。ただスケジュール的には、図録を執筆中の段階で、6 月上旬には印刷にかけていかなければなりませんので、今、図録に差し込むのは、このタイミングでは難しいかもしれません。

事務局　私も 1975 年以前の平塚を知らないのですが、その頃はまだ川漁もされていましたし、川舟も使われていたり、木造船がまだ海で使われていたりしました。印象的なのは春期特別展で展示した鐙などを採取した砂利船なども、相模川にたくさんあったんですね。また公害問題も、平塚の自然を守る運動をされてきた大勢の方々の力で改善してきたことによって今の平塚があるということ、そうした背景などについても、図録の行間に埋め込むようにしたいと思います。そういう面の写真も博物館にもかなりあると思います。展示はこれから構成を練っていく段階ですので、その中で少しでも触れることができるよう、考えさせていただきたいと思います。

委　員　川のお話が出ましたが、30 年ほど前は金目川でシジミをたくさん採った記憶があるんですね。自然破壊のあと、今、川が綺麗になったことは確かだと思うのですが、シジミが棲む状況ではなくて今は採れないということで、まだまだかなと思います。

委　員　その頃にいたシジミは本来の日本のシジミですが、今、金目川にいるシジミは全部外来種の台湾のシジミなんです。日本じゅう外来種に全部入れ替わってしまったんですね。川の水質は綺麗になったのですが。

委　員　水の綺麗さとは違う問題なのですね。

委　員　この前の話では、市民の方から写真を集めて、それを選んで、構成しながらテーマを作っていく、というイメージでしたが、今日のお話ではもう図録を作って、今昔比較や民俗資料の展示ということなども決まっているようですが、ここで今年、平塚市制施行 80 周年記念の写真集が郷土出版社から出ましたね。で、出版前に、本当かどうかは分からないのですが、歴史関係の写真収集の際に、博物館から「こちらも写真展があるので協力できない」と言われた、というような話を聞きまして、これはぜひ成功させなくてはと思い、地域に呼び掛けて郷土出版社用に写真を集めました。で、出版されました。地域のみんなが集まって協力して写真を出しましたので、自分たちが出した写真は何枚あるかと写真集を見ましたら、地域に係わるものは 1 枚だけしかないのです。自分達が協力して係わってできた写真集の評価というのは、自分が出したものがあるか無いか、なんですね。で、こちらの博物館の写真展は、ただ集まったものを並べるだけでなく、しっかりしたベースに写真展としての色々な要素が加わって 80 周年にふさわしいものになっているようですので、個人としては興味・関心を持って期待しているところです。以前開催された山本登さんの写真展も、昔写真の中に市民の思いや視点が出ていて、それからそれへと興味や話題が広がっていくような、とても良い写真展でしたが、今回もそれ以上になるのではと思っています。

事務局　まず、写真展の写真の選別についてですが、もちろん博物館の学芸員の眼で「こういうのがいいな」という写真を選んで展示するようにいたします。また、提供してくださった写方は、なるべく多くの方々の写真を展示できるようにしたいと考えておりますので、ご期待に応えることができると思います。ぜひご期待ください。なお、郷土出版社に私どもが「協力しない」と言ったという話が出ましたが、ちょっと誤解があるようです。「こういう写真を貸してほしい」という要望をいただきまして、それについて私どもからも貸し出しておりますので、その点、誤解があるようですのでよろしくお願いいたします。

委　員　夏期特別展についてですが、住民参加ということに非常に興味があります。寒川町の例ですが、同じような撮り方で写真を出してくださいと言うと、今のアングルで撮ってきてくださって、そこまで住民の方にお願いして開催したのですが、非常に評判が良かった。ただ、展示ができあがったあとで、お客さんが来ていただいて、実はこういう話があるとか、実はこういう写真があるとかうかがい、そこまで展示に盛り込めれば良かったという反省がありました。なので、色々な住民参加の形があると思うのですが、先程おっしゃっていた、市民の方から写真を公募する以外に、どういう形の住民参加を考えているか教えていただければと。

事務局　参加という意味では、今はまだ写真を集めるということしか考えていませんでした。先程お話があった山本登さんの写真の展示の時に、大変要望が多くて、その図録が売れ切れてしまって、時間がたつものですから、昔の風景を残すような展示や図録を、というのが今回の企画の起こりでした。同じ写真を使って展示するよりは、この機会に市民の方がお持ちの写真を博物館に集約するような意味を含めて、公募をして写真展をやってみようというような成り行きだったのですね。ですから、多分、寒川で実施されたのと同じような動機だったのかなと思いますが、そういう意味では先輩の事例を今うかがいましたので、ぜひ参考にさせていただきたいと思います。何か教えていただくことがありましたら、よろしくお願いいたします。

委　員　大変重要なポイントを指摘していただきました。実は琵琶湖博物館でも十数年前に同じような写真展を開いて、大変好評で、いまだに図録が売れ続けていると思います。その時に、まさに今お話があったように、その写真を目の前にして色々な記憶が蘇るというような効果があって、思ってもみないような情報が聞き出せるのではないかと思います。例えば、写真展に人を配置して、来館者が話されたことを情報として蓄積しておくということをされると、色々な展開ができるのではないかと思います。他に何か、プラネタリウム・日食関連事業について、ご意見はございませんか。では議題⑶のその他に移らせていただきます。

議題⑶として、外壁工事の予定について事務局管理担当の縣館長代理から説明。

【質疑応答】

委　員　市民参加型ということは大賛成です。例えば公園を作る時など市民と一緒になってというように、かなり前からワークショップなどという形で行われていると思うのですが。学芸員さんは専門的であることは大事なのですが、世の中は変化してきていますので、市民参加型の手作りの博物館であってほしいなと思います。自分達が作っていけば絶対に参加しますし、与えられたものはみんな参加しないんですね。ぜひ、知識を与えるだけでなく、うまく市民から何かを引き出しながら、10 年先にそのような市民参加型の博物館であったらいいなと、今日議論して思いました。ありがとうございました。

事務局　今日の全体のご議論、忌憚ないご意見をいただきまして本当にありがたかったと思っております。特に 5 年・10 年先の話というのは、実は色々な建物の問題ですとか、学芸員の人事の問題など、かなり現実に眼の前にぶら下がっている大きな問題として出てきています。ですから、様々な考えや、市民の方々の考えを集めて、この博物館をどうしていくか、新たなデザインをしていかなければいけない時期なんですね。本当に 5 年・10 年というのは、実は差し迫った切羽詰った問題として、我々は認識いたしております。また、多々ご意見をいただいたりということもあろうかと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。どうもありがとうございました。

委　員　中・長期計画を作るようにしているのですか

事務局　常にそれを見直しして、我々が持っている希望と市全体が進んでいくプロジェクトとの整合性を図っていく必要があります。例えば今大きな事業として市庁舎の建設などが進んでいるわけですが、そうした事業に伴う動きの中に、博物館の課題の改善をうまく挟められないかということを考えながら進めてゆかなければなりません。それを今やらないと、5 年・10 年後に実現できないということが随分ありますので、私どもはむしろそういうことで一杯な状況です。

事務局　では次の日程ですが、例年、夏期特別展が終わる頃、９月第 1 週でいかがでしょうか。では次回は９月７日金曜日午前 10 時から、ということでよろしいでしょうか。